# おおてみち

第130号

令和7年(2025年) 1月1日
滋賀県立安土城考古博物館

## 第１常設展示室は、リニューアル後のイメージ

第１常設展示室は、現在リニューアル工事中ですが、令和7年3月18日から、展示室内に造作した安土城天主五階部分をイメージさせる八角形のシアターで、信長や安土城についての最新情報を最新のデジタル技術を活用して映像化し、上映します。

近江風土記の丘
滋賀県立 安土城考古博物館
Shiga Prefectural Azuchi Castle Archaeological Museum

〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦6678
Tel.0748-46-2424 Fax.0748-46-6140
e-mail gakugei@azuchi-museum.or.jp
URL https://www.azuchi-museum.or.jp

## 特別陳列Ⅲ　近江の遺跡発掘調査③

# 「中世のお金―虫生館遺跡出土事例から」

会期：令和6年12月4日(水)～令和7年2月4日(火)

皇朝十二銭の最後である「乾元大寶」以降、日本における銭貨発行は一旦終了し、銭貨の流通量も次第に減少します。しかし中世に入ると再び銭貨の流通は増加しました。ただし用いられた銭貨のほとんどは日本で発行されたものではなく、中国から輸入されたものでした。海外から渡来した銭貨が、中世の日本経済で利用されたのです。

ところで中世の日本で利用された銭貨は、時として一か所から大量に見つかることがあります。このような出土状況を示す銭貨群は「一括出土銭」とか「埋納銭」とか「備蓄銭」などとよばれています。滋賀県内においても、いくつか確認されていますが、その代表例かつ一度に見つかった枚数が滋賀県で最も多い事例こそ、野洲市に位置する虫生館遺跡の出土例です。

虫生館遺跡の「一括出土銭」は昭和四四年（一九六九）、個人住宅の改築工事の際に、地下一・五メートルのところで見つかりました。銭貨は立った状態の信楽焼の壺に納められていました。壺の形態や中身の銭貨の種類等から、壺が埋められた時期は十六世紀初頭くらいと考えられています。壺に収められていた銭貨は推定四七四二枚以上、銭種は五七種類にも及びます。当時の発見者も大変驚いたことでしょう。

本陳列では虫生館遺跡の「一括出土銭」の内、五七種類すべての銭貨を陳列します。そして含まれる銭貨の傾向や近江における他遺跡の事例等から、中世の日本で流通した銭貨の構成やその特徴、使われ方について紹介したいと思います。（佐藤佑樹）

虫生館遺跡出土　銭貨と壺（銭貨のみ陳列）

## 特別陳列Ⅳ

# 「信長とその息子たち」

会期：令和7年2月5日(水)～3月18日(火)

戦国時代の武家では、通常、後継者は「嫡子」とされていました。「嫡」は正妻、または正妻の産んだ子(とくに第一子)を指します。この場合の「子」は「むすこ」（むすめは「女」）の意味ですから、基本的には長男が嫡子となります。

さて、織田信長の長男は、信忠です。正妻の子ではありませんが、正妻に子が生まれず、嫡子として育てられました。元服後は各地の合戦で経験を積み、十九歳で家督を継ぎます。「家督」は「嫡子」と近しい表現ですが、家（一族）の長としての身分や権力を保証する言葉です。家督継承者は財産を相続する存在でもあります。信忠は美濃と尾張の地に加えて、信長秘蔵の刀剣などさまざまな「重宝」を与えられたようです。

しかし、そのわずか七年後、信忠は本能寺の変でこの世を去ります。信長と信忠を同時に失った織田一族では、今度は信長の二男、三男である信雄と信孝の後継ぎ争いが始まります……。

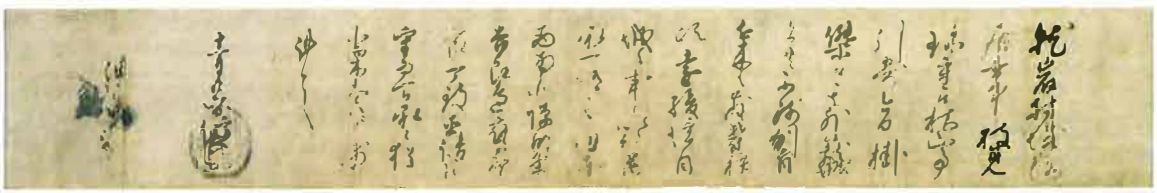
信雄らの争いは一族の問題にとどまらず、賤ケ岳の戦いや小牧・長久手の戦いといった日本史上の重要な戦とともに展開します。家臣にとっても敵対勢力にとっても、織田一族の動向が重大な関心事であったためだと言えるでしょう。

今回の特別陳列では、信長とその息子たち、信忠、信雄、信孝に注目し、彼らの書状を一挙に展示します。

下に掲げた写真は、信長の書状です。末尾には有名な「天下布武」の四字を刻んだ印章（はんこ）が捺されています。展示では、こうした印章を意識したと思われる息子たちの印章も紹介します。それぞれの印面に刻まれた語から、戦国時代を生きた彼らの思いを想像してみてはいかがでしょうか。

四人の文書が展示室にそろうこの機会を逃さず、じっくりと見比べながらご観覧頂ければ幸いです。

（瓜生翠）



織田信長黒印状（当館蔵）

資料紹介

# 新開二号墳出土鉄鋌

（滋賀県栗東市、五世紀中頃）

新開古墳群は、安養寺丘陵の尾根上に営まれています。新開一号墳は、甲冑の大量保有古墳として、また初期の馬具の副葬事例として著名です。二〇メートル離れた地点に位置する二号墳からは鉄鋌一〇枚が出土しています。二号墳は、規模等の詳細は不明ですが、木棺直葬と考えられる遺構内から、鉄素環頭大刀一本、鉄剣一本、鉄鏃一六本、棺外と考えられる位置から鉄剣一本、鉄矛一本、鉄鋌一〇枚が出土しています。両古墳は、出土遺物の組み合わせから五世紀中頃に築造されたと考えられます。

新開二号墳から出土した鉄鋌は紐でくくられた状態で副葬されたと考えられます。韓国では、鉄鋌やそれに先行する板状鉄斧が一〇枚単位で納められている例がみられることから、鉄鋌は一〇枚単位でくくられて、運ばれた可能性が高いと考えられます。

鉄鋌は古墳時代中期の副葬品で、その形状と、数百枚まとまって出土することがあることから、鉄素材であり、『日本書紀』にある「鉄鋌（ねりがね）」であると考えられてきました。同様の形状の鉄鋌は韓国東南部、加耶や新羅といった地域の、ほぼ同時代の古墳からまとまって出土することが知られています。多くの鉄鋌は、韓国東南部から日本列島にもたらされた鉄素材であると考えられてきました。

しかし、鉄鋌が鉄素材であるとする学説には、異議を唱える声が、特に日本の古墳時代の鉄・鉄器生産を対象とする研究者から上がっています。その主な根拠は、鉄鋌の中には、実用利器としては使用に耐えることのできない、非常に柔らかいものが一定量含まれていることを挙げています。つまり、鉄鋌は利器素材としての役割を果たすことができないと唱えるのです。

鉄の生産・流通・所有の解明は、古墳時代研究の大きなテーマです。古墳時代の鉄素材を考える鍵が、新開二号墳の鉄鋌と周辺の鉄器生産の様相からみえてくるのではないでしょうか。（大道和人）

栗東町新開２号墳　鉄鋌

# 「幻の安土城」見える化アプリケーション

昨今のデジタル技術の進歩は目覚ましく、多くの城跡でVR（仮想現実：かつての景観をCGで再現するもの）やAR（拡張現実：現実の景色にかつての姿をCGで合成するもの）を活用したアプリケーションが公開され、築城当時の姿を楽しむことができます。「幻の安土城」復元プロジェクトでも、今は失われた安土城の姿を、デジタルで再現するため、アプリケーションの制作を行っています。

安土城のアプリケーションでは、安土城跡の見学ルートに沿って設定された16カ所の見える化スポットで、建物の復元CGや発掘調査の成果など、様々な情報を見られるようなものを考えています。また、安土城天主については現在、複数の復元案が発表されていますが、それらのCGを現地の天主台石垣と重ねて見比べられるようなメニューも組み込む予定です。

アプリケーションの公開は令和7年10月の予定です。期待してお待ちください。

（滋賀県文化財保護課）

アプリケーションのイメージ

## あの遺跡は今！ Part 31 整理室へようこそ!!

# ―見て・触れて・感じる考古学―を開催しました

公益財団法人滋賀県文化財保護協会では、館内にある整理室を特別に公開するイベント「あの遺跡は今！」を毎年開催しています。例年、夏休みに合わせた7月の開催でしたが、31回目となる今年は、リニューアル工事による休館が明けた10月13日(日)・14日(月・祝)に開催し、五〇〇名近い方たちに来場いただきました。

遺跡から見つかった出土品の展示コーナーでは、現地調査の写真パネルと調査員や考古学専攻生による詳しい解説付きで、佐和山城跡（彦根市）などから見つかった本物の出土品を間近にご覧いただき、大変好評でした。

また、出土品の接合や実測・注記などの整理作業の公開も、毎回人気があるコーナーです。調査スタッフの熟練のワザに感心するだけでなく、体験コーナーで実際に作業することで、その難しさや大事さも感じていただきました。

体験コーナーでは古代の瓦キーホルダーと古代の勾玉を作るブースも設けましたが、事前にチラシを見て興味を持ったたくさんの親子連れが参加されました。本物のように、時間をかけて丁寧に仕上げる方がたくさんおられました。

「あの遺跡は今！」は、文化財を身近に感じてもらうイベントとして、今後も開催していきます。

（公益財団法人滋賀県文化財保護協会企画整理課安土分室）

専攻生による展示解説

瓦キーホルダー作り

## 博物館の主な催し

**でかける博物館** 1月25日(土)～2月24日(月・祝)

**特別陳列Ⅳ 信長とその息子たち** 2月5日(水)～3月18日(火)

### 1月

- 1日(水)～4日(土) 年末年始休館
- 6日(月) 休館日
- 11日(土) 連続講座Ⅲ「信長家臣たちの苦闘」②
  「明智光秀の丹波攻め」
  講師…太田浩司氏
  （淡海歴史文化研究所所長）〈当日受付〉
- 14日(火) 休館日
- 20日(月) 休館日
- 27日(月) 休館日

### 2月

- 3日(月) 休館日
- 8日(土) 連続講座Ⅲ「信長家臣たちの苦闘」③
  「信長家臣団の破綻
  ～山崎合戦から賤ヶ岳合戦への道～」
  講師…太田浩司氏
  （淡海歴史文化研究所所長）〈当日受付〉
- 10日(月) 休館日
- 17日(月) 休館日
- 25日(火) 休館日

### 3月

- 3日(月) 休館日
- 10日(月) 休館日
- 16日(日) 臨時休館
- 17日(月) 休館日
- 18日(火) リニューアルオープン
- 24日(月) 休館日
- 31日(月) 休館日

※シアターは事前予約が必要です。
※連続講座の会場は当館セミナールームです。
※事情により行事内容や日時・講師が変更になることがあります。最新の情報は当館ホームページでご確認ください。
※滋賀県立安土城考古博物館は公益財団法人滋賀県文化財保護協会が指定管理をしています。

おおてみち　第130号
令和7年（2025年）1月1日発行

編集・発行　滋賀県立安土城考古博物館
〒521-1311　滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 6678　TEL0748-46-2424
E-mail：gakugei@azuchi-museum.or.jp　URL：https://www.azuchi-museum.or.jp